2020 年度 秋冬学期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科 評価委員会

授業改善アンケート調査結果

１．授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004 年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。講義科目を対象に授業内でマークシート用紙の配布・回収により実施していたが、2016 年度にグローバル 30 人間科学コース（以下、G30）、2017 年度には、講義科目以外の演習、実習、研究も対象科目となった。講義科目以外の科目については KOAN 上での回答を行っていたが、2019 年度春夏学期からは、KOAN 上での回答率の低さを改善すべく、すべてマークシート方式に変更した。2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から授業がオンライン化したことをうけ、QR コードを利用した非接触型の WEB 形式に切り替えた。実施期間は以下の通りである。

2020 年度秋冬学期アンケート回答期間：2021 年 1 月 12 日～2 月 5 日

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義、演習、実習、研究を含む全科目である。講義科目と講義以外の回収率は以下の通りである。なお、講義科目および講義以外の科目について、対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳を記す。受講登録者数に対する回収率は、20.3%であった（2019 年度秋冬学期：76.4%）。

2019 年度秋冬学期授業改善アンケート　講義科目
対象科目数･回答数

		対象科目数	回答数
学部科目	共通科目	6	136
	行動系科目	18	129
	社会人間系科目	11	48
	教育系科目	15	103
	共生系科目	10	40
大学院科目	共通科目	9	82
	行動系科目	8	17
	社会人間系科目	7	18
	教育系科目	13	22
	共生系科目	4	4
G30 科目		15	27
計		116	626

回収数 626／受講登録者数 3077＝回収率 20.3%

※1　基礎科目は、行動・社会人間系・教育・共生系科目に割り振られている。

2　受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに2010年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

２．授業改善アンケートの結果

2020 年度秋冬学期は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から授業形態が対面・オンライン・ハイブリッド型と多様化したことをうけ、統一的な方法を取るべく、授業改善アンケートをWEB 形式に切り替えた。2020 年度秋冬学期の授業改善アンケートの回収率は 20.3%となり、紙媒体で行っていた 2019 年度秋冬学期の 73.8%から大幅に低下したが、未曽有の変化への対応に追われた今年度の調査にかんしては前年度以前の記録と比較しえない点に留意する必要がある。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問 10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」（1～5 の範囲で数値が高いほど高評価を意味する）については、平均が 4.36（2019 年度秋冬学期 4.17）であり、前年度よりも高い値となった。学系別集計によると、共生学系の「非常に良かった」と回答している学生の割合が、前年度よりも 23.6 ポイント、社会人間学系の割合が前年度よりも 24.2 ポイント上昇している。G30 提供科目は、問９「この授業で学問的知識が身についたと思いますか」について前年度より 24.6 ポイント上昇しており、専門的知識の修得を求める学生の要望に応えた結果が満足度にも反映していると考えられる。

満足度に関する問 10 以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問１の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が 91.4%となり、2019 年度秋冬学期 84.1%よりもさらに 7.3 ポイント上昇しており高い値となった。また、問２の「この授業の予習・復習にあてた１週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」については経年変化を見ているが、今回「ほとんどなし」と答えたのは 25.2%となり、前年度の 46.0%から大幅な改善をみせた。この傾向は本年度春夏学期と同様であり、授業のオンライン化による課題提出状況の管理等と関連させて理解すべきものであると考えられる。

また、問３「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対しては「適切」であるとの回答が 76.5%とこちらも 1.7 ポイント上昇している（2019 年度秋冬学期：74.8%）。授業内容の理解度を尋ねる問４「授業内容はよく理解できましたか？」、授業方法の工夫等を尋ねる問８「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？」のいずれもが前年度より向上していることからも、授業で扱う題材選定の適切さや、授業の進行形式の改善が、問９の学問的知識の修得および問 10 の満足度の向上に寄与しているといえる。

以下より、2020 年度秋冬学期の授業改善アンケート結果の詳細を示す。

※学系別集計については以下のように集計している。

・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。

・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。

・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会・教育・共生科目に割り振られている。

・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。

・各学系によって１科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

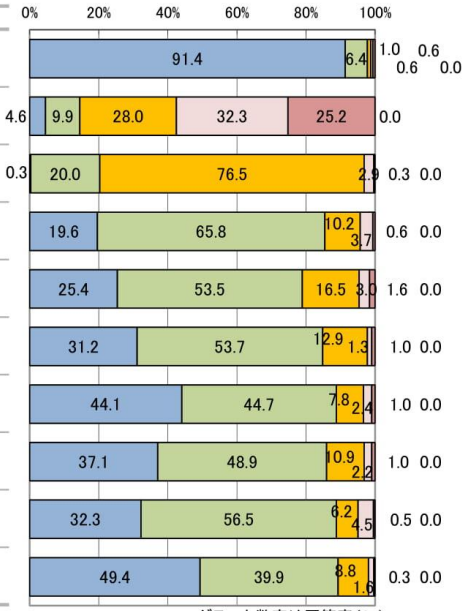
授業改善アンケート

大阪大学　人間科学部・人間科学研究科
2020年度後期

全体集計

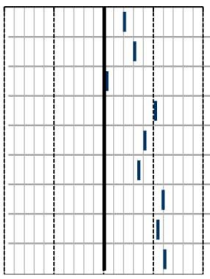
履修者数	3077
回答数	626
回答率	20.3%

番号	内容	全体平均
1	この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？	4.87
2	この授業の予習・復習にあてた1週間あたりの平均時間はどれくらいですか？	2.36
3	授業内容の難易度はどうでしたか？	3.17
4	授業内容はよく理解できましたか？	4.00
5	授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？	3.98
6	授業はシラバスに沿って展開されましたか？	4.13
7	授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？	4.29
8	授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？	4.19
9	この授業で学問的知識が身についたと思いますか？	4.16
10	この授業は全体として良い授業だったと思いますか？	4.36



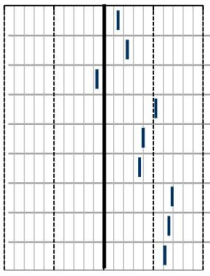
グラフ内数字は回答率（%）

【Q9との相関】



		相関係数
Q1	出席率	0.209
Q2	予習・復習の時間	0.312
Q3	授業の難易度	0.032
Q4	授業の理解度	0.522
Q5	シラバスの内容	0.415
Q6	シラバスとの整合	0.353
Q7	興味・関心	0.598
Q8	授業方法と資料	0.547
Q10	総合評価	0.615

【Q10との相関】

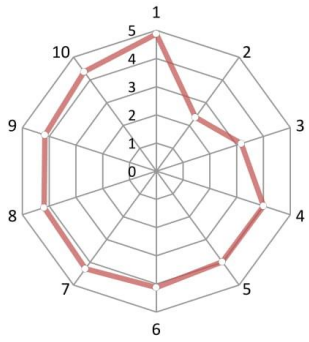


		相関係数
Q1	出席率	0.145
Q2	予習・復習の時間	0.238
Q3	授業の難易度	−0.069
Q4	授業の理解度	0.525
Q5	シラバスの内容	0.398
Q6	シラバスとの整合	0.362
Q7	興味・関心	0.689
Q8	授業方法と資料	0.657
Q9	学問的知識	0.615

回答凡例						
配点	5	4	3	2	1	−
質問1	80%以上	60～80%	40～60%	20～40%	20%以下	不明（無回答を含む）
質問2	3時間以上	1.5時間～3時間	30分～1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4～9	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいのかの参考値として下さい。相関係数の「−」は計算不能を示します。（例：回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど）

【質問別得点】



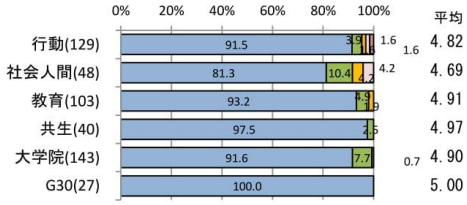
大阪大学　人間科学部・人間科学研究科
授業改善アンケート　2020年度後期

学系別集計【全体】

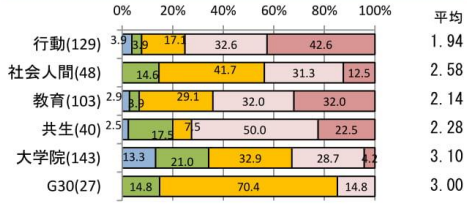
※グラフ内数字は回答率（%）

回答凡例						
配点	5	4	3	2	1	－
質問1	80%以上	60～80%	40～60%	20～40%	20%以下	不明（無回答を含む）
質問2	3時間以上	1.5時間～3時間	30分～1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4～9	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

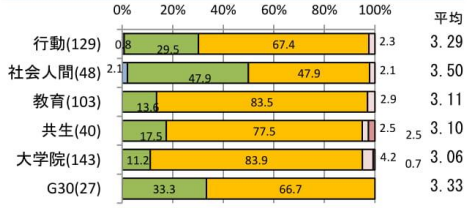
1．この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



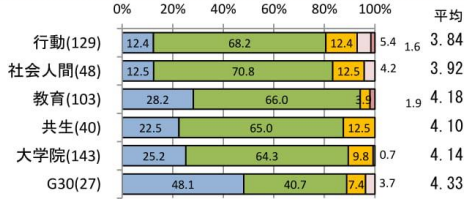
2．この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



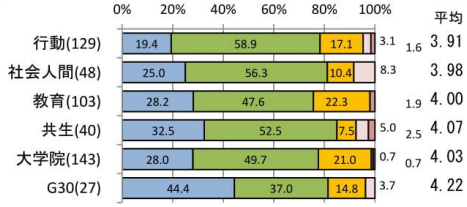
3．授業内容の難易度はどうでしたか？



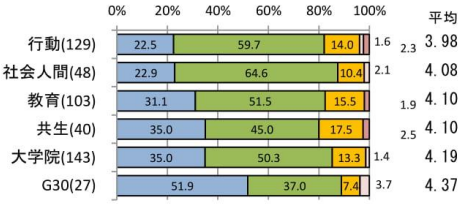
4．授業内容はよく理解できましたか？



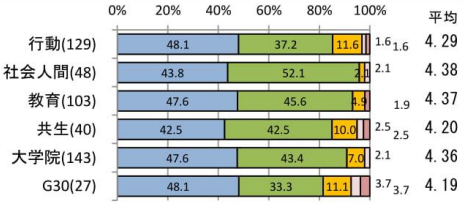
5．授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の 内容を知るのに役立ちましたか？



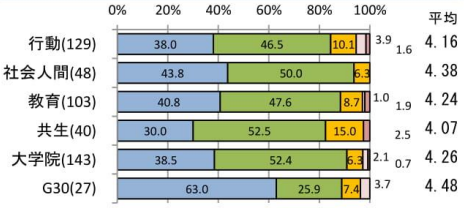
6．授業はシラバスに沿って展開されましたか？



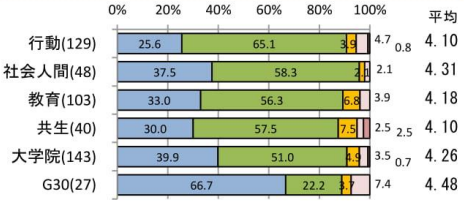
7．授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



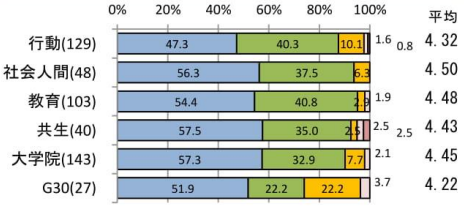
8．授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



9．この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



10．この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



＜満足度上位の科目＞

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ)。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 116 科目のうち、有効回答数が 10 以上の科目は 16 科目であり、平均値 4.36 を上回ったのは 7 科目であった。

2019 年度秋冬学期講義科目
満足度上位の科目一覧

	科目名	有効回答数	問 10　平均値
1	コミュニケーション社会学	24	4.75
2	教育工学Ⅰ	35	4.63
3	教育哲学	12	4.58
4	安全行動学	49	4.55
5	共生社会論Ⅲ	17	4.53
6	臨床心理学概論	16	4.38

【大学院】

	科目名	有効回答数	問 10　平均値
1	メディアと共生社会特講	29	4.76

３. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。(敬称略・順不同)

教員名：澤村　信英	国際協力学Ⅱ

コメント

⇒　コロナ禍で留学生の受講生が激減し、日本語を解する学生に対して、英語で授業を実施するという状況であった。そういう中で、G30 学生 1 名の存在は貴重であり、日本人学生も当該学生の発言から刺激を受けることもあったと思う。学生間の議論を促進しようとしたが、発言する学生は限定的であった。授業の進め方としては、今回から CLE を活用し、1～2 週間には資料をアップした。受講生にとって事前学習ができる体制を作った。Web アンケートの回答率が極めて低いことに驚くと共に、今後は授業時間中に回答を促すなど、特別の配慮をする必要性を感じた。

教員名：野村　晴夫	臨床心理面接特講 II

コメント

⇒　回収率が低いため，今後，アンケート協力を促しつつ，ますますの授業改善に努めてまいります。

教員名：福岡　まどか	文化人類学演習 II

コメント

⇒　授業内容について、やや難しいというアンケートの結果でした。

この授業には、①英語の文献を講読することと、②文化人類学について学ぶことという２つの目的があります。専門用語や知らない地域の事例なども出てくるため、たしかに英語の文献講読を通して人類学を学ぶのは難しい面もあると思います。授業では、できるだけわかり易い英語を用いた文献で、さらに具体的な事例を扱っているものを取り上げました。教員の側からの手応えとしては、おそらく英語文献の講読よりは、人類学の理論や事例の説明などがやや難しかったのではないかと思います。

今後もこの結果を踏まえて、可能な限り具体的な事例や方法を通して人類学という学問分野についての知識を深められるようなテキストの選択や授業のやり方を工夫していきたいと思います。今学期はより具体的なイメージが湧きやすいように映像資料なども活用しました。来年度以降もこうした試みも続けてみたいと思います。

教員名：脇阪　紀行	メディアと共生社会特講

コメント

⇒　コロナ禍で授業の約 3 分の 2 を遠隔授業にせざるをえなかったが、そこそこの評価を得られたのかと思う。毎週の授業の後、ＣＬＥブログへの受講生全員の投稿と私からの返信を重ねる中で、時に長文の考察があり、驚きとうれしさを感じた。メディアや差別、排他主義を論じる際、トランプ前米大統領の奇矯な言動や、性差別やケアを巡る日本、米国、中国それぞれのいびつな社会状況が、皮肉なことに、生きた教材となった。ジャーナリズムの未来について考えようと、学術的資料の配布量を増やしたが、授業中に十分深掘りできなかったとの思いが残る。

教員名：八十島　安伸	行動生理学・行動生態学実験実習Ⅰ（心理的アセスメント）

コメント

⇒【行動生理学】アンケートでの総合評価（Q10）が 4.5 を超えていたので、概ね受講生には有益な授業を行えたと判断できます。ただ、専門的な内容についての説明について、メモの時間等が不足していたという意見があったことから、複雑な事象やメカニズムの説明については、複数回の説明を行うことも検討します。質問への回答が丁寧であったと高評価をいただきました。これは授業開講への励みともなりますが、それ以上に、教員への質問・意見を投げかけることは、授業だけでは教示できない部分や関連情報について、より深く、広く議論できる「双方向での学びの機会」を提供できるものです。つまり、その質問をきっかけとして、より良い情報を広く受講者間で共有することができます。そのため、講義中でも講義後でも、いつでも構いませんので、今後も積極的に質問や意見を投げかけて欲しいと思います。Zoom でのオンライン講義中にも、質問の有無についてはできるだけ複数回尋ねましたので、同様の対応を対面やハイブリッド型式であっても継続したいと思います。

⇒【行動生態学実験実習Ⅰ（心理的アセスメント）】実験実習Ⅰは、行動学系の全ての分野による分担実習が毎週行われていますので、それぞれの分野毎に、内容やレポートの難易度が異なることについて、理解していただきたいと思います。ただ、レポートの難易度や要求される労力の多さのみだけではなく、なぜ、そのようなレポートがそれらの分野からは出されたのかという理由についても、受講生にも想像してみて欲しいと思います。それなりの必然性や理由があるはずです。それも含めて、行動学科目に所属する個々の学生の進路への決定にも実験実習Ⅰを有意義に活用して欲しいと思います。つまり、受け身ではなく、積極的に、もしくは良く考えながら実習に参加して欲しいと思います。当面は、現行通りの実習の進め方を続ける予定です。

教員名：中井　宏	安全行動学

コメント

⇒　対面とオンラインのどちらも選択できる形式とし、いずれの出席形式にも対応したつもりだったが、オンラインでの参加学生からは意見交換の場を設けて欲しかったとの意見があった。どちらかというと、表情が見える対面出席者に向けて話かけていたが、対面出席者は多くて 5 名程であったので、オンライン参加者にフレンドリーな進行が良かったのかも知れない。

教員名：千葉　泉	共生の技法Ⅰ

コメント

⇒　学生との間のコミュニケーションをさらに改善することで、授業に関する彼らの意見や希望、アイデアを積極的に把握し、迅速にフィードバックを行うことで、受講生のニーズにより対応した授業の構築に努めたいと思います。

教員名：青野　正二	環境行動学特講Ⅰ

コメント

⇒　今年度後期に担当した講義の授業はオンラインで実施した。アンケート結果において質問別得点の分布を見ると、同科目の得点は全体平均とほぼ一致する傾向であった。さらに質問項目別に見た場合、「授業内容の理解度」、「方法・資料の工夫」、「学問的知識が身についたと思うか」の 3 項目の分布が一致していた。これは、オンラインで実施するにあたって、従来の配付資料を全面的に見直したためではないかと考えられる。一方で、課題の回答に対してフィードバックをどのようにすべきかを（個別にあるいは全体としてまとめて実施すべきかなど）検討する必要があると思われる。

教員名：森田　邦久	認知システム論特講

コメント

⇒　履修者は 5 名ほどいたものの、回答者が 2 名のみなのでアンケート回答から講義の出来を読み取るのは難しいが、質問番号 4,6,8,10 において、一方がいずれにも「どちらとも言えない」と回答していた（もう一方は 10 以外は「そう思う」と 10 は「非常に良かった」）。このことと、そもそも履修者が少ないことから、もう少し哲学以外の学生に興味を持ってもらえるシラバスと実際の授業内容を工夫することが必要であると感じた。

教員名：森川　和則	基礎心理学（知覚・認知心理学）

コメント

⇒　「基礎心理学」授業の総合評価（質問 10）は例年になく低かったです。その原因は難易度（質問 3）が平均より高いと評価されていたこと、資料の準備（質問 8）の評価が低かったことでしょう。どちらも、慣れないオンライン授業にしたことに起因していると考えられます。対面授業を行なっていた時はこのような不評はありませんでした。難易度がやや高めであることは必ずしも悪いことではないと思いますが、資料のアップロードが授業直前であったことに対して不満の意見がありました。今後もしオンライン授業を行なうことがあれば資料を遅くとも授業の前日までにアップロードするようにします。ただし来年度は対面授業に戻す予定です。

教員名：篠原　一光	応用認知心理学（知覚・認知心理学）

コメント

⇒　講義科目である「応用認知心理学」は、今学期オンラインと対面のハイブリッド型で実施した。内容としては従来行っている講義とほぼ同じ内容を行ったが、講義ではオンラインでの出席者が多く反応がつかみにくかった。また通常行うような学生への問いかけなどもやりにくく、従来の完全対面型の授業とは異なる対応が必要であることを感じた。一方、ハイブリッド型の利点があることも認識したので今後もハイブリッド型での授業実施を続ける予定だが、学生に授業に参加させる工夫の必要性を感じているため、教材等でこの形式に対応できるような改善に努めたい。

教員名：佐藤　眞一	臨床死生学・老年行動学（福祉心理学）

コメント

⇒　臨床死生学・老年行動学（福祉心理学）は、学部 2 年生以上への提供科目である。本年度はコロナ禍のためリモートで実施した。出席率は良好で、質問にもきちんと答えていた。新たな方法として今後も利用可能かと思われる。しかし、授業改善アンケートに回答した学生が 7 名と少なかったことが残念である。大学院生が受講しないため、講義内容をより理解しやすいように、担当者 4 名で事前に打ち合わせを行ったうえで実施した。また、公認心理師資格取得に対応する科目のため、国家試験ブループリントに記載されている高齢者心理学関連項目やキーワードを含むように授業を工夫した。しかし、国試受験予定者ではない学生も多いことから、特別な資料などは準備しなかった。受験者各自が関連図書で学ぶなどの準備をして欲しい。アンケート結果は予習・復習にあてた時間が平均よりも少ないことが毎年の傾向であるが、関連書籍を紹介したことや、事前に授業で使用するパワーポイントファイルを CLE に掲載したことで、多少は増加したように思われる。他の項目への回答は、全体平均と同等かそれ以上の評価であった。実験実習や演習などの科目は受講生が研究室所属の学生であることと、数人程度なので特に問題は無かったようである

教員名：金澤　忠博	発達臨床心理学（障害者・障害児心理学）

コメント

⇒　アンケートの回答率が 9.3%（54 名中 5 名）と低かったが、毎回講義の終わりに書いてもらったリアクションペーパーでは、多くの学生さんから、有用な知識が得られたという内容の評価が得られ、努力が報われたと感じている。リモートであったために、体験的に学ぶアクティブラーニングが不十分であったことは残念だった。講義内容をこれからの子育て等に生かしていただきたい。

教員名：管生　聖子	教育学概論

コメント

⇒　本科目は全体的な平均とほぼ同様でした。

複数教員によるオムニバス形式の講義であったこと、また今年度のこのような状況を踏まえ急なオンライン対応になった回もあったことから、受講生の皆さんにとっては困難を覚えることもあったと思います。資料を読み込み自身で学習を進めることに難しさを感じた受講生もいたので、担当教員間で共有し工夫できるようにしたいと思います。

慣れないことにも臨機応変に対応し、学びを進められていたと思います。

教員名：佐々木　淳	臨床心理学概論

コメント

⇒　調査結果から、内容については一定の興味を持っていただけたように思いました。よりよい授業として展開できるように努めたいと思います。

教員名：稲場　圭信	共生社会論Ⅲ

コメント

⇒　コロナ禍にあって感染症対策をして、共和メディカルの方々との対面授業もできましたが、最後の 4 回は感染症拡大の状況下で当初計画していたグループディスカッションが出来ずに対面とオンラインのハイブリッド形式になりました。シラバスの通りに進まなかった部分が反省点で、次年度は改善します。

結果としては、コロナ禍の対応の中でも全体として良い授業 4.53 だったので、よかったと思います。授業後の学生コメントを匿名でよいので見たいとの要望もありました。可能な範囲で対応したいと考えています。

教員名：渥美　公秀	共生行動論Ⅰ

コメント

⇒　オンライン授業とした。隔週で行うことで講義とその直後のグループに分かれたディスカッション、そして、各グループで話し合われたことへのコメントという組み合わせによって、毎回集中的に理解を深めて頂くことができたと思う。課題は 3 回あってそれなりに大変だったようではあるが、実に良く調べ考えて書いてくれて、毎回、学びが深まっているという感触を得ることができた。唯一の問題は、アンケートに応えてくれる受講生があまりに少なかったことである。授業中のリマインドが十分でなかったようなので、この点は改善していきたいと思う。

教員名：西森　年寿	教育工学Ⅰ・教育工学演習２・実験実習 1,3・特定特別演習

コメント

⇒　オンラインでの回答で、全体の回答数が減る中、面倒くさがらずに回答してくださったみなさん、とくに意見を書き込んでくださった方、ありがとうございます。満足度など前回より向上していますが、例年より回答が好意的なかたに偏ったとも推測されますので、とりあえず話半分で受け取っておいて、ひきつづき授業準備に励もうと思います。

【教育工学Ⅰ】

意見交換の時間を増やすなどの改善案をいただきました。小グループにわけると、どうも参加してくれない（できない）人もいるようで、躊躇するところがあったのですが、なにか方法を考えたいと思います。また、それなりの時間をかけてやったオンデマンド対応への感想ももらえて、励みになりました。

【その他、演習や実習などの授業】

回答ありがとう。今期だけでなく１年を通して、オンラインコミュニケーションの経験がお互い深まったと思います。次年度以降、なるべく対面に戻す予定ですが、この経験を生かして、うまくオンラインを取り入れることができたらなとは考えていますので、アイデアがあればひきつづきよろしくお願いします。

教員名：文　鐘聲	情報処理演習Ⅰ
コメント ⇒　受講者は少なかったものの、受講生にとってよい授業が提供できたと考えます。	
教員名：村上　靖彦	社会学概論他
コメント ⇒　ゼミ科目は回答者が少なく、アンケート実施者として申し訳ないです。 社会学概論、オンラインでグループワークができたことが好評だったようなので、この点は来年度に活かせたら良いと思います。	

教員名：岡部　美香	教育哲学・教育思想史特講
コメント ⇒　授業アンケートにご回答いただき、ありがとうございました。今年度はコロナ禍のため、授業の実施に少なからず影響があったにもかかわらず、特に大きな問題がなかったようでホッとしました。Zoom の使用にも慣れてきたので、来年度は、よりスムーズに、わかりやすい授業が実施できるよう、努めたいと思います。	

教員名：鹿子木　康弘	比較発達行動学・比較発達心理学特定演習Ⅱ
コメント ⇒　授業人数が少ない講義では、すべてのコメントに対するフィードバックを講義の冒頭に必ず行っていたのだが、その点をとても評価してくる学生がいてくれて嬉しい。受講者数にもよるが、できるだけ今後もコメントに対するフィードバックを行っていきたいと思う。 　また、回答数は少ないが、難易度に関しては、普通からやや易しめとの回答があった。教員側は少し難しいかと思っていたので、次回からはもう少し難易度を上げたいと思う。また、予習と復習に関する時間が少ないので、そのあたりを充足させるためにも、難易度を上げることが必要な気がする。	

教員名：足立　浩平	Multivariate Data Science・多変量統計科学
コメント ⇒　数理系の学問は難解さを伴うため，すべてを把握するのは難しいです．そこで，「この部分はわからなくても構わない」という判断が大切で，大雑把にエッセンスを把握することに努めてください． 　なお，今後，メディア授業のときは，私の声が聞こえにくくならないように，心がけるつもりです．	

教員名：中野　良彦	生物人類学

コメント

⇒　今年度はコロナの影響により、オンデマンドでの授業とした。自主的な学習の割合が大きくなるのは当然である。一部の学生からは、毎週のように質問のメールが来ており、それについては丁寧な回答を送った。しかし、学生全体として、基本的にそうした自主的な取り組みが少なかったのは否めない。

　いずれにしても、細かいところまで説明をする必要があるという点に気をつけながら、次年度からは対面での授業を行いたい。

教員名：老松　克博	臨床心理学特定演習Ⅱ・臨床心理学特別演習Ⅱ・臨床心理査定演習Ⅱ・臨床心理学特講Ⅱ

コメント

⇒　実習関係の授業が中心ですので，コロナ禍のなかでも秋・冬学期はほとんど対面で実施できてさいわいでした。アンケートの回答率が低かったため，皆さんのご意見を把握しきれませんが，「予習・復習の時間」の少なさ，言い換えれば予習や復習の難しさが問題の一つだったかもしれません。だとすれば，例年と似た傾向です。たしかに，これらの科目では実際の臨床事例を扱うことが多いので，予習をすることはまずできません。臨床の現場と同様，ふだんの勉強や経験の積み重ねをもとに臨機応変に対処する力が求められます。そのためのトレーニングと心得て，「ふだん」をだいじにしてください。講義科目においても臨床事例について論じていますので，ちがいはありませんが，ご意見を参考に工夫していきたいと考えています。

教員名：檜垣　立哉	共生学概論・共生の人間学Ⅱ

コメント

⇒　共生学概論の方は、途中まで対面方式、一部遠隔、12 月以降新型コロナウイルス第三波の影響などでおおきく授業形態が崩れたりしたものの、概ね、それなりの評価であったと考える。対面形式でディスカッションというのが一番いいのだが、この状況では対面では一方的になってしまい、逆に Zoom でやったときは学生どおしのディスカッションが可能という状況なので、これを普通の年と同じと考えるのはなかなか難しいが、逆に Zoom や遠隔での大授業を経験したのも初めてであったのでそれなりの評価がえられるメソッドを身につける意味はあったのかなとおもう。

来年は従来の、対面で、ディスカッションもできるという形式が一番よいとおもうものの状況的に難しさも感じる。

⇒　共生の人間学Ⅱの方は、アンケートの数が少ないのでどうとはいえないが、概ねいつも通りかなとおもえるものであった。Zoom 併用であったがそれも、大過なく行えたとおもわれる。

教員名：Dave Murray	英語による国際コミュニケーション I-B・英語による国際コミュニケーション II-B

コメント

⇒　Despite the adversities that we all faced during the co-vid pandemic, I hope you had an enjoyable experience during the course.

I’m certain that your active participation in class ensured that you attain your desired improvements in your English skills and proficiencies and reap the benefits commensurate with your achievements during the course.

In keeping with the ubiquity and advances in constantly evolving technology and in view of the ongoing pandemic, in 2021 this course will incorporate extensive multimedia components.

I wish all of you every success in the future with your chosen career paths.

教員名：藤川　信夫	教育人間学演習 II・臨床教育学実験実習 III

コメント

⇒　オンライン授業であったにもかかわらず、「教育人間学演習Ⅱ」の、とくに評価項目９、１０が平均以上であったことは、授業の印象とも一致しており、今回の成果であったと思う。評価項目７については、平均よりやや低めの評価であったが、今後とくに改善を心がけたいと思う。
卒論指導に関わる「臨床教育学実験実習Ⅲ」については、予習・復習時間以外の項目で平均以上であったため、今後もレベルを維持していきたいと思う。
他の授業科目については、アンケートへの回答がなかったが、オンライン授業は、遠隔地に居住する学生（とりわけ社会人院生）にとって参加を容易にしたり、資料のやりとりが容易になるなど、思わぬ効果もあり、今後も対面授業と併用するなど、うまく利用していきたいと思う。

教員名：野坂　祐子	教育心理学演習・教育分野に関する理論と支援の展開

コメント

⇒・熱心に受講いただけて、よかったです。
　・予習・復習などの自己学習の時間は、受講者によってバラつきがあるようです。こちらから課題を指示したときだけでなく、できるだけ主体的に自己学習を深めてもらえたらと思います。

教員名：髙田　一宏	教育文化学・コミュニティ教育学・教育文化学特別演習Ⅱ

コメント

⇒　今季は、コロナ禍の中で、様々な理由で授業を欠席する学生が出ましたが、レポート提出等の代替措置をとったり、ZOOM を使って授業の中継をしたりしました。大きな支障なく授業はできたと思います。ただし、各授業のアンケートへの回答は 1～3 人しかなく、自己評価ができません。回答への協力呼びかけを怠ったことを反省しています。

教員名：斉藤　弥生	比較福祉論
コメント ⇒　履修者は 48 人でしたが、アンケートへの回答数は残念ながら 2 件しかありませんでした。ターム科目では回答が少なくなりがちですが、この 2 名の方は授業に満足してくれていて嬉しく思いました。新型コロナ感染拡大への対応として、今年度は初めてブレンデッド授業を試行し、対面でも、オンラインでも受講できるようにしました。初回の授業では教室に 10 人くらいの方が来てくれましたが、その後は徐々に対面での受講者が減り、結局はほとんどがオンライン参加となりました。2021 年度は対面授業をメインにします。	

教員名：野尻　英一	文明動態学・社会理論特講・比較文明学特別演習 II
コメント ⇒　各科目に、いろいろなご指摘をいただき、感謝しています。基本的には各科目とも従来と同じ内容や資料の提供の仕方で授業を行ないました。今年はコロナ渦の状況がありましたので、そのために CLE を通した資料配付が増えましたが、提供しているものが同じでも提供のコンテキスト、環境が変わりましたので、そうすると学生さんの意見も変わってくるのだなとわかりました。気付いた傾向としては、従来の対面授業では手持ちの資料、スライドなどすべてをファイルで配ってしまうのではなく、画面で見せるだけに留める部分と使い分け、その場での集中力を重視することを意図的に授業設計に組み込んでいましたが、オンライン授業ですと、すべて配ってしまってしまったほうが親切ということになり、そのことが逆に対面授業のとらえ方にも影響を与えるようです。コロナの状況はいずれ過ぎ去るものであることもあり、今後は切り替えていくべきなのかどうか、引き続き皆さんからのご意見も頂きつつ、考えていきたいと思います。	

以上（コメント回答 32 名）